

1. 日本格差問題

格差を検証する方法・・・

資産と消費を使った検証

→データ量が少なく、信憑性が低い。

所得を使った検証

→データ量が多く、信憑性が高い。

四つのデータベース

「格差問題」—所得を取り下げる。

* 四つのデータベース..

「所得再分配調査」→厚生労働省が3年おきに公表していて、日本に住むあらゆる人を対象。

「家計調査」→総務省が毎年行っていて、単身世帯や農業に従事している人は調査の対象外。2人以上の家計が対象。

「全国消費実能調査」→総務省が5年おきに公表していて、2人以上の家計が対象とされる。

「賃金構造基本調査」→厚生労働省が毎年行っていて、従業員数100名以上の企業のみ対象とされる。

2.日本の不平等化

日本の不平等化を国際比較する

・日本の不平等度が高まっている

[OECD調査]:結果・ポルトガル・アメリカ・

イタリア・ニュージーランド・

イギリス・日本

(不平等度がかなり高い国)



* 日本は先進国の中でも明らかに不平等度が高い国になったと結論。

[イギリス・アメリカ]・・・新自由主義という思想
を基本に置いた国。

[ポルトガル・イタリア]・・・ヨーロッパの中で
後進国ないし中心国。

↑(不平等が高くなっている)

- ・現在、新自由主義への心棒を強める傾向が
日本にある。
- ・・・→日本の不平等度のレベルは、
アメリカやイギリスに近づきつつある。

3.日本の貧困、深刻な現状

- 貧困には2つの定義がある..

「絶対的貧困」

各家計がこれ以下だと、食べていけない生活できない。

「相対的貧困」

他人と比べてどのくらい所得が低いかという意味の貧困。

「貧富の格差が増えた」

- 90年代の末から、2000年ごろにかけてホームレスが3000人→6000人に倍増。
(貧困者が増えた証拠)
 - 豊かな人の所得がさらに上がり、貧しい人の所得がますます低くなるという側面。(ともに増加)
- * 不平等が拡大すると、貧富の差が増す。

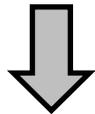
4. 「見かけ問題」

日本が高齢化していることによる

「見かけ上の問題」

・「格差は見かけにすぎない」という論・・・

高齢化が進み、単身者が増加→格差が増える。



高齢単身者が増える・・・貧困層が増える。

政府はどう対応するのか・・・

5. セイフティーネットの現状

[セイフティーネット]の規模が小さくなっている。



所得が低下し、貧困者が増える。

- ・この現状に対し、政府が、「格差拡大は実際には起こっていない」と主張することは、自己矛盾しているだけではないか…。